現職研修委員会　社会科部

# 羅針盤

２０５号
H27.12.16

社会科部　情報活用委員会

## 学びの内容にこだわった授業を

社会科部長　　山田　一夫

「今から、先ほどの授業についての研究協議を始めます。今回の授業をより活性化させるためには、どのような手立てを講ずればよかったかという点についてご意見をいただきたいと思います。」

ある研究協議会で、司会者が示した提案です。私は、これを『なるほど』という思いと、『今回もか』という複雑な気持ちで聞きました。限られた時間の中で、深まりのある協議をするには、内容を焦点化する必要があります。その意味からすると、今回のように手立てに絞った協議をしようとする意図はよく理解できます。私の危惧は、近年の協議会が、手立てに関することに偏り過ぎていないかという点から生じたものでした。

「活力に満ちた授業を行いたい」「目を輝かせて追究する子供を育てたい」。これは、社会科教師の誰もがもつ願いです。そして、その願いを実現するために、私たちは様々な手立てを考え、授業に臨みます。その結果、全員発言の授業が展開されたり、息の長い発言をする子供が育ったりといった、素晴らしい成果を得られることがあります。

しかし、活力のある授業を行えば、授業の目標に迫ったり、授業者が育てたいと願う社会認識へと子供を導いたりすることができるのでしょうか。子供が生き生きと学ぶ授業は極めて大事です。しかし、「子供はその授業で何を学んだか。授業者が考える目標に迫ったか」という点をおろそかにすると、授業の価値は半減してしまいます。

手立ては手段であり方法です。社会科の授業における手立ては、授業の目標に迫るための手段であり、願う社会認識を育てるための方法です。したがって、手立ては、目標や目指す社会認識と一対で考えるのと同時に、授業者が示した目標や目指す社会認識の内容や質との関係も吟味される必要があります。最近、こうした「授業づくりの原点」ともいうべきことがやや軽視されているのではないかと感じるときがあります。

社会科の授業は、「はい回る」「活動あって学びなし」といった厳しい評価を受ける場合があります。これは、授業で目指すべきものを見誤ったときに起こることが多いように思います。気をつけたいものです。

社会科に対する期待は今後益々大きくなっていきます。それは、例えば、選挙権の引き下げに伴い、これまで以上に公民的資質の育成が喫緊の課題となっていること、社会参画のあり方を問う授業が求められてきていることなどを見ても明らかです。これらの動きに対応する鍵は、「学びの内容にこだわった授業」にあるのではないでしょうか。今こそ私たち社会科教師が頑張るときです。

## 授業力・教師力アップセミナー『基礎編』報告

７月３０日（木）、額田地区においてセミナーを行いました。猛暑の中ではありましたが、60 名余りの方々にご参加いただきました。

まず、宮崎地区を中心とするフィールドワークでは、岡崎むかし館の野本欽也先生に解説をいただきながら、足利氏ゆかりの天恩寺、万足平の猪垣、宮崎神社の矢場、茶畑などを見学しました。午後からは、ぬかた会館にて、「額田」の地域教材を生かした実践授業事例を鈴木巨裕先生と長谷川威全先生に発表していただきました。その後、小グループに分かれ、市内各地区の地域教材を紹介し合う話し合い活動を実施しました。また、総括として野本先生に、旧額田町の民俗学的なおもしろさに着目した地域教材の取り上げ方を講話していただき、大変有意義な１日を過ごすことができました。

宮崎地区で猪垣づくり用通路を歩く

（基礎研修委員会委員長　矢作北中　新美　聡）

# 第６５次　教育研究愛知県集会報告

１０月１７日、名古屋市のウインクあいちにて、第６５次教育研究愛知県集会が開かれました。社会科部からは、社会科教育小学校・中学校の各分科会に４名の先生が正会員として参加されました。活発な議論がなされる中で、「子どもの姿」をとらえ、その変容から成果や課題を分析した岡崎の研究実践が高い評価を受けました。その中から、２名の先生方に報告していただきました。

参加された正会員の先生
〇社会科教育　小学校
酒井　孝康先生（矢作北小）
三浦　良見先生（美合小）
〇社会科教育　中学校
佐々木幸美先生（竜南中）
日置　正敏先生（翔南中）

社会科教育小学校分科会では、地域学習８本、国土・産業学習８本、歴史・公民学習１０本の計２６本のリポートをもとに、「発達段階に応じた、社会参画する力の育成」を柱とし、活発な質疑・討論が行われました。地域素材を生かした実践が多数発表され、それを基に「社会に対する見方・考え方を深める学習指導のあり方」について討議しました。そして、子どもが地域の人・もの・こととの出会いを通して、一つの課題を多面的、多角的に捉えられるようにするためには、資料の充実や学習形態を工夫することが重要であることが確認されました。また、子どもの思考をつなぐ効果的な資料の提示の仕方や、子どもが学びたいと思えるような学習課題の設定など議論を深めました。テーマに沿った議論をする中で、社会の見方・考え方を学ぶことができ、今後の実践の参考にすることができました。

助言者の先生からは、「教員自身が教材を多面的にみることが大切であること」「教員が過去の実践をなぞるだけでなく、新しい視点や教材を開発するなど、常に挑戦する姿勢をもつこと」など、教材への視点や教材研究の姿勢についてご指導をいただきました。今回の経験を今後の実践に生かせるよう努力していきたいと思います。　（矢作北小 酒井　孝康）

社会科教育中学校分科会では、初めに、地理学習１１本、歴史学習５本、公民学習３本の計１９本のレポート発表が行われました。「身近な地域の学習では、他地域との比較・関連付けを通して一般化を図る実践」や「ゲストティーチャーの活用や社会事象の比較、関連付けを通して、社会に対する考え方・見方を深める実践」などが報告されました。

続いて「中学校社会科における小中連携の模索」および「情報・格差・グローバル社会に生きるために身に付けさせたい能力」などをテーマに討論が行われました。前者では「中学校でも身近な素材を生かすことで学習意欲が高まるのではないか」という意見が出ました。また、後者では「聞く力、相手を受け入れる力を育む重要性」「主権者としての判断力の育成」などについて活発な議論が行われました。

助言者の先生からは、「学ぶ意欲を高めるために、学習課題をどのように設定するかが重要である」、「合意形成を図るにあたって、譲るべき部分と譲れない部分を明確にする調整力を養うことが必要である」などのご指導をいただきました。

今回の貴重な経験を今後の授業実践に生かしていきたいと思います。

（翔南中　日置　正敏）

# 社会科研究作品展＆発表会

今年度も社会科部と岡崎むかし館が協力して、１０月３日（土）～１３日（火）に岡崎市図書館交流プラザ（りぶら）で「社会科研究作品展」を行いました。

特別賞を受賞したみなさん

| 学年 | テーマ | 氏名 | 学校名 |
|---|---|---|---|
| 小３ | 今もつづく戦国時代！？ | 大野楓子 | 根石小 |
| 小３ | 今とむかしの子育て | 河合弘美 | 三島小 |
| 小４ | ぼくの住む十王町の由来 | 髙橋良門 | 梅園小 |
| 小５ | 歴史から作る岡崎ハザードマップ | 中根結衣 | 矢作西小 |
| 中２ | 岡崎が起点！！―塩の道― | 中神　環 | 翔南中 |

今年度の社会科研究作品は、市全体では過去最多の３０８７点が製作され、そのうち小中合わせて１４５点の代表作品が社会科主任の先生方の協力により寄せられました。集まった作品は、研究作品委員会の先生方とりぶらの職員の方々の手によって、２階に展示されました。作品が展示された児童生徒のみなさんには、市教育委員会より賞状とトロフィーが贈られました。展示期間中は、熱心に作品に見入る大勢の親子連れや市民の皆さんの姿があり、今年も大変好評を博しました。

期間中の１０月１０日（土）には、「研究作品発表会」がありました。優秀作品に選出された５名が、りぶらにて研究の成果を発表しました。研究テーマを決めた理由や現地調査を行った時の苦労などから、児童生徒が意欲的に社会科の研究に取り組んでいる様子がよく伝わってきました。

# ちょっと寄り道

## 大川神明宮の舞台（形埜小学区）

大川神明宮の「舞殿」

旧額田町には、昔の暮らしを知る手掛かりが、数多く残っている。その一つに「農村舞台」と呼ばれるものがある。

形埜小学区の大高味町にある大川神明宮。小高い丘の上にぽつりと本殿が建っている。この本殿の向かいに立つ建物が「舞殿」で、地元の人たちは親しみを込めて「舞台」と呼んでいる。この建物の棟札に明治１５年５月２５日建立とあり、建物の間口１０．９m、奥行９m、高さ１０．９mの大きさである。目の前に立ってみると、思った以上の大きさに驚かされる。

この舞台の特徴は回り舞台にある。床下で操作し、２２個の木車で動くようになっている。また、箱枠の底にロープをつけて上下させる「せり」もある。まさに、歌舞伎の舞台そのもので、「奈落の底」から役者が出てくるのである。この舞台は、「豊楽座」と呼ばれ、明治から大正、昭和３０年まで村芝居の舞台として使われており、明治中期の代表的な農村舞台として、昭和５１年、愛知県の有形民俗文化財に指定された。

ちなみに、下山小学区の保久町にある保久神社にも、明治２９年建立の農村舞台が現存する。現在、これらの農村舞台が使われることはないそうである。「古きよきもの」がなくなっていくことは、寂しい限りである。

（額田中　鈴木　広樹）

～小学校６年生分科会～

小学校６年生の公民単元「私たちの願いを実現する政治」の実践について報告しました。美合学区にある東部給食センターの跡地利用や丸岡新橋を教材として、「理想の公園」を実現させるために、自分に何ができるかを考えて動き出そうとする姿を追究していくことが課題でした。

本単元を通じて、子どもたちは学区には私たちの生活をよりよくするために尽力された方がいることや、丸岡新橋が建設された過程を多くの人たちと関わり合いながら追究することで、政治の仕組みや願いが実現するために自分たちができることを学ぶことができました。そして、その学びを生かして、「みんなにとっての理想の公園」を追究課題として、美合版児童市議会を行い、学区の方々に提案をすることができました。

協議会では、助言者の先生から、公民単元を学習するときは、「自分たちの身近なものを教材とすること」「政治は正に『今』動いているものであるため、教材化するタイミングが重要であること」という助言をいただきました。今回学んだことを生かして、子どもたちが自ら動き出そうとする実践を積み重ねていきたいと思います。

（美合小　三浦　良見）

【中学校地理分科会の様子】

# 平成２７年度 愛社研報告

１０月２７日、西尾市立鶴城中学校において愛知県社会科教育研究大会が開催されました。この中で、岡崎を代表して２名の先生が実践報告をされました。その様子を報告していただきました。

【小学校６年生分科会の様子】

～中学校地理分科会～

中学校 １ 年生の地理単元「急速に進むミャンマーの幸せな発展とは」の実践について報告をしました。生徒は、ミャンマーの留学生との出会いやゲストティーチャーの話から、ミャンマーの経済発展に関心をもちました。「ミャンマーはＡＳＥＡＮ諸国に追いつくことができるのか？」と課題を設定し、実際の様子を調べ、それを基に話し合いをしました。

単元を通して、ミャンマーの経済発展のためには、インフラの整備を進めることの大切さが分かっていきました。しかし、経済発展だけを考えるのではなく環境問題を解決したり、独自の文化を大切にし、ミャンマーの良さを残したりすることも大切だと考えるようにもなりました。そして、自分たちが考えたことをＳＫＹＰＥでミャンマーの日本企業に提案をしました。

協議会では、助言者の先生から「社会に参画していく子どもを育てるためには、行動化だけに目を向けるのではなく、お互いの考えを確認したり、考えを再考したりする過程も大切にしていくことが望まれる」とご助言をいただきました。社会参画していく子どもの育成の仕方について学ぶことができました。

（竜南中　佐々木幸美）

# 研究発表会報告

## 男川小学校（１０月　７日）

「ESD の視点に立つ教科学習の展開ー相手意識をもってかかわり合い、思考判断・表現できる子供の育成ー」を研究主題にして、研究発表会を行いました。ESD で今日的な課題を解決する過程を通して、子どもたちー人一人に豊かな「思考力・判断力・表現力」を身に付けることを目指して研究に取り組みました。３年１組「お店のひみつ発見」では、まず、クラスで一番よく行く「ピアゴ」の見学をして、人気の秘密を探りました。ピアゴでは、お客さんのために様々な工夫や努力をしていることに気付きました。そんなすばらしいピアゴがあるのに、学校の近くにある中型スーパー「ヒラク」にも多くの人が買い物に行っています。「ヒラクに行きたくなるひみつは何だろう？」という学習課題で、ピアゴとヒラクを比較しながら、お店の工夫とお客さんの願いとのかかわりについて理解することができました。子どもたちは、それぞれの店の長所に気付き、消費者としても店を選択することの大切さを考えることができました。　（男川小　鈴木　巨裕）

## 葵中学校（１０月２０日）

本校の社会科部では、「多文化社会に通用する思考力・判断力・表現力を身に付けた生徒を育てる授業」というテーマで研究に取り組んでいます。

研究発表会では、三つの授業を公開しました。２年生地理的分野「中部地方」の単元で「資料を読み取り、中部地方の産業を考えよう」、１年生歴史的分野「武士の台頭と鎌倉幕府」の単元で「義経を許さなかった頼朝が成し遂げたことは何か考えよう」、１年生地理的分野「アジア州」の単元で「アジアの国国の工業化について考えよう」という授業です。どの授業もICTを効果的に取り入れました。特に２年生の授業では、資料から読み取ったことを基にして、分かったことや考えたことを意欲的に表現できる生徒の育成を目指しました。タブレットのカメラ機能を用いて、資料集や教科書に載っている資料を撮影しました。資料の見せたい部分を拡大したり、マーキングしたりして焦点化しながら大型ディスプレイに資料を提示し、クラス全員で資料を共有しながら発表し合う活動を行いました。ICTの特性やよさを取り入れた授業によって、生徒たちの学び合い、磨き合いを深めることができました。　（葵中　市川晋一郎）

## 矢作中学校（１１月１１日）

本校では、「主体的に学び、向上心あふれる生徒の育成―『追究する対象』、『自分』、『他者』とのかかわりを視点として―」を主題として、実践に取り組みました。

２年生地理「日本の諸地域」の単元では、京都について学ぶ中で、京都市の新景観条例に着目し、「京都市の町づくりについて、人々はどう思っていたのだろう」という学習課題について話し合う授業を公開しました。現在の条例について、市役所や市民など様々な立場から意見を聞き取り、京都の人々の条例に対する問題点を焦点化していきました。そして、より京都の人々の思いに沿ったものにするためにどうしたらよいか話し合う中で、切実感をもち、多面的に解決策を思案する生徒の姿が見られ、思考の深まりを感じました。

３年生公民「地方自治と政治」の単元では、矢作地区のまちづくりプランを題材として、より住民の考えを反映したプランにするために、世代・地区ごとにアンケート調査を行った後、「矢作地区はどのようなまちづくりを目指していくべきか」という学習課題について話し合う授業を公開しました。話し合う中で、様々な立場の人々のことを考えるべきであること、画一的なまちづくりでなく、矢作のよさを生かしたまちづくりを目指すべきという思いをもつことができました。　（矢作中　勝冶　貴志）

## 竜海中学校　（１１月１８日）

本校では、「チャレンジ　竜海式 Active Learning　ーコミュニケーションを取り入れた教科学習を中心にー」をテーマに研究発表を行いました。①課題に対して切実感を持ち、自分事として問題解決に向かう生徒②他者と考えを関わらせ共に思考を構築する生徒③目指すべき社会の実現に向けて動き出そうとする生徒を目指して授業づくりに取り組んできました。

３年生公民科「岡崎市の架け橋になる！？乙川リバーフロント計画」の授業では、学区内の乙川を中心とした再開発計画についての問題点について話し合いました。魅力の多い計画であるが、地域住民へのインタビューや市役所の方の話を聞いて、「計画を知らない人が多い」、「人が集まるイベントが少ない」、「費用がかかりすぎる」など問題点も多くあることを、見つけていきました。特に、「計画を知らない人が多い」ことを問題ととらえた生徒たちは、人を集めるために PR 活動が必要だと考え、具体的な PR 方法について検討していきました。身近な問題に対して、様々な人と意見を関わらせる中で、積極的に社会参画していく姿が見られました。　（竜海中　内藤　恵三）